



学校のめあて

心豊かで
たくましく
いつも進んで学ぶ子

TEL 25-4450 [http:// www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/](http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/)

一年生を迎える会がありました

1年生が入学してから3週間が過ぎようとしています。この間に授業や給食も始まり、1年生の子どもたちも少しずつ学校生活に慣れてきたようです。このような中で、1年生を迎える会が19日の13時25分から体育館で行われました。

最初に、1年生の子どもたちは、音楽に合わせて担任の先生と入場しました。会の司会進行は、学級委員会の児童が進めました。会の中で、2年生からアサガオの種、3～6年生は分担して作成した校歌のカードがプレゼントとして渡されました。そして、歓迎の歌として、校歌が歌われました。1年生にとって校歌は、これから6年間、いろいろな場面で歌うことになるので、プレゼントされた校歌のカードを使って、早く校歌を覚えられるとよいと思います。

短い時間でしたが心温まる会になりました。



北小学校の紹介（学校が街 街が学校）

年度の初めですので、少し北小学校のことを紹介したいと思います。北小学校がコミュニティ・スクールということを知ったことがあるかと思いますが、そもそもコミュニティ・スクールとは何なのかということについて紹介したいと思います。

コミュニティ・スクールは、端的に言うと学校運営協議会を置く学校のことです。そして、この学校運営協議会は、法律に基づき教育委員会より任命された委員が、一定の権限と責任を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。この仕組みにより地域の力を学校の運営に生かすことで子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決することが可能になります。コミュニティ・スクールは、市町村の教育委員会が指定するもので、それぞれの学校が自由にコミュニティ・スクールになれるというものではありません。

では、なぜ、学校運営協議会という機関が必要なのかということですが、現在、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、実に多様で複雑化しています。これらの課題を解決し、未来を担う子どもたちが豊かに成長していくためには、社会総掛かりで子どもたちの教育に当たっていくことが不可欠です。（裏面に続きます）

この社会総掛かりの教育を実現するためには、保護者や地域住民の方々が参画する「学校運営協議会」を設置することで、地域とともに子どもたちの教育を進めていくことが可能になります。この制度は平成27年12月に国の教育に関する審議会の答申で、全ての公立学校において学校運営協議会の設置を目指すべきであることが示され、それ以降、増え続け、令和4年には全ての公立学校の42.9%にあたる15,221校がコミュニティ・スクールになっています。

さて、群馬県では平成20年に初めてコミュニティ・スクールが2校指定され、そのうちの1校が本校ですので、群馬県のコミュニティ・スクールの先駆けといえます。そして、本校がなぜコミュニティ・スクールに指定されたのかですが、旧校舎から現在の校舎への全面改築を行うにあたり、「伊勢崎21市民会議・街づくりと学校部会」で新しい学校のコンセプトが話し合われ、提言が出されました。この提言のキャッチフレーズが「学校が街街が学校」で、この提言を踏まえ、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を中心に、地域と一体となってよりよい学校づくりを目指されました。また、子どもと大人がともに学ぶ拠点となるように、校舎に併設して建設する社会教育施設を「赤石楽舎」と命名したり、地域の教育的財産を生かした特色ある学校づくりを推進するために、通学区域にとらわれず市内全域からの通学を可能とする特認校としたりすることが示されました。このように、現在の北小学校は、ただ新しい校舎を建て替えるというのではなく、これからの時代を見据えて、学校のあるべき姿を明確にして学校が建てられたことが分かります。そして何よりも、国の答申が出され、コミュニティ・スクール化が推進されるよりも早く、この伊勢崎市で同様のことが先行して話し合われ、学校が建設されたことに驚きを感じます。建物もさることながら、学校建設の考え方そのものが最新だったと言えるのではないでしょうか。

